

「晩秋のホットな戦い！」



今季初優勝！！ #410



快挙を狙ったが惜しくも2位！ #30



初ポディウム！ #95



ポディウムまでは1Lap #5

3月に開幕したK耐久東海シリーズ2015も、あっというまにシーズン最終戦。年間チャンピオン争いが最終戦までもつれ込んだクラスもあり、最後まで目の離せない戦いとなることは必至。

今年は暖かい日が多く、例年は冬の訪れを感じさせる風が吹くスパ西浦だが、この日はぽかぽか陽気、まだまだアツいバトルを見たいということか！

「KNN」クラス（軽NAのノーマルクラス）

なんとなんとこの日集まったKNNマシンは17台、シリーズ始まって以来のエントリー台数。ノーマルに近い改造範囲ながら真剣勝負が楽しめるクラス、最近では新規格軽自動車の参加が増大しており新たなムーブメントとなっている。シリーズタイトルは第4戦で#28「LIMITLINE トゥディ」が決めたが、ランキング2位以下の新規格勢を中心とした接戦は、今回も見どころの一つ。

■予選

予選のトップは#30「ガレージミウラ IDI アルト」が1'08.697で初のクラストップを奪取！初出場ながらNA660区分のマシンを駆って新規格勢初のクラストップ、10秒切りは素晴らしい速さを見せた。

予選2番手は#28「LIMITLINE トゥディ」1'089.790、こちらも自己ベスト更新だったが惜しくも2番手スタート。いやいやKNNマシン速くなりました。

3番手は第4戦優勝の#13「愛知工科大学 DXL アルト1号」1'10.239、20キロのウエイトを積みながらタイムアップ。4番手は#410「ACRS トゥディ」1'10.498、5番手#5「PROJECT K アルト」1'11.033、6番手#95「KHK アルト」1'11.272、以下、7番手#74「アルジェンタートアルト GT」1'11.360、8番手#33「Timely アルト IDI」1'11.385、このあたりも軒並みタイムアップ。

9番手の#22「馬淵大阪鯨@脂がのったエッセ」は初出場で1'11.468、10番手#29「ブラストヴィヴィオ」1'13.437、11番手#327「正福ポフアルト」1'14.884、12番手#210「ZEST スピードハート MIRA」1'15.682、13番手は初出場の#448「448SPEARHEAD ミニカ」1'17.337、14番手も初参加#81「呑んだくレーシングミラ」1'24.321、さらに15番手も初出場、#43「お弁当はみのりが美味しいぞ MYU」1'25.256と続く。

最後尾はタイム計測ができなかった、#6「ロッキーレーシング DXL アルト」と予選は出走しなかった#35「JKレーシング EUROU ビート」となり、17台全車が決勝へ。

■序盤

最初のスティントは旧規格勢が上位走行、トップは#28「LIMITLINE トゥディ」、それを追う#410「ACRS トゥディ」。3位以下の新規格勢は混戦模様、#5「PROJECT K アルト」、#95「KHK アルト」、#33「Timely アルト IDI」あたりが上位をうかがう。

予選トップの#30「ガレージミウラ IDI アルト」は早めのピット戦略、一旦は中団に。予選で走れなかった、#35「JKレーシング EUROU ビート」や#6「ロッキーレーシング DXL アルト」をはじめその他のマシンたちも順調に滑り出したなかで、#43「お弁当はみのりが美味しいぞ MYU」がトラブルを抱え、5Lapしたところでリタイヤとなってしまった。

Race Report



■中盤

中盤のスティントは9番手スタートの#22「馬淵大阪鯰@脂がのったエッセ」が健闘、クラストップを記録する。実家がお寿司屋さんとのことで、配達も速いか。それに襲いかかるのは旧規格の猛者たちで、#410「ACRS トウディ」と#28「LIMITLINE トウディ」がトップ集団を形成。

4番手は虎視眈々と狙う#30「ガレージミウラ IDI アルト」、以下#33「Timely アルト IDI」、#5「PROJECT K アルト」、#74「アルジェンタートアルト GT」、#95「KHK アルト」、#13「愛知工科大学 DXL アルト 1号」、#6「ロッキーレーシング DXL アルト」といったところが第2集団で混戦模様。

さらに#35「JK レーシング EUROU ビート」も今回唯一のビートとして健闘。

■終盤

レースも終盤、ゴールまであと一時間。トップは5「PROJECT K アルト」99Lap、2位#33「Timely アルト IDI」98Lap、3位#410「ACRS トウディ」97Lap、4位#30「ガレージミウラ IDI アルト」97Lapとこのあたりが表彰台圏内か。

しかしながら、#6「ロッキーレーシング DXL アルト」96Lap、#95「KHK アルト」96Lap、#13「愛知工科大学 DXL アルト 1号」95Lap、#28「LIMITLINE トウディ」95Lapとほぼ同一周回で上位を追っておりまだまだ予断を許さない。

初出場チームなども、レースの雰囲気慣れてきてしっかりと自身のペースを刻んでおり、#210「ZEST スピードハート MIRA」87Lap、#448「448SPEARHEAD ミニカ」86Lap、#81「呑んだくレーシングミラ」83Lap、#327「正福ポフアルト」83Lapと規定周回数クリアに向かって着実に走っている。



第4戦の勝者が5位 #13



この辺りは同一車種で接戦 #33



最速の配達 #22



シリーズチャンピオンは俺たち #28



偽り(!?)の表彰式…実は7位からです～



マルティニは今回 9 位 #6



よく挽回した #35

■最終結果

ゴール間近となった、12 時 20 分、#81「呑んだくレーシングミラ」が立体交差下でクラッシュ。幸いドライバーにはケガはなかったが、セーフティカーが出動。クラッシュ車の移動に取り掛かったが、時間がかかりそのままチェッカーフラッグが掲示、セーフティカーに先導されたまま今シーズンのゴールを迎えた。

結局このレースを制したのは、#410「ACRS トウディ」、2 位には初出場ながら予選トップから初優勝を狙った#30「ガレージミウラ IDI アルト」が入った。3 位には#95「KHK アルト」は初表彰台というポディウム。

以下 4 位#5「PROJECT K アルト」、5 位#13「愛知工科大学 DXL アルト 1 号」6 位#33「Timely アルト IDI」とここまでは表彰台まで1Lap という接戦。

7 位以下は#22「馬淵大阪鮎@脂がのったエッセ」、8 位#28「LIMITLINE トウディ」、有終の美は飾れなかったが、予選 2 番手から上位を走るなどチャンピオンチームらしい速さを見せた。

9 位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、10 位#35「JK レーシング EUROU ビート」、11 位#210「ZEST スピードハート MIRA」、12 位#448「448SPEARHEAD ミニカ」、13 位#74「アルジェンタートアルト GT」、14 位#29「ブラストヴィヴィオ」、15 位#327「正福ポフアルト」。

最後にクラッシュしてしまった#81「呑んだくレーシングミラ」も 16 位完走扱い。リタイヤは#43「お弁当はみのりが美味しいぞ MYU」という結果となった。



11 位完走 #210



初出場で完走 #448



惜しくも完走ならず #43



Race Report

GT-CAR PRODUCE

■総評

チャンピオンは#28「LIMITLINEトゥディ」が獲得、第2戦で優勝、それ以外にもコンスタントに表彰台を獲得した総合力が光り初の年間タイトルに輝いた。

一方新規格勢の台頭は著しく、今回では#30「ガレージミウラ IDI アルト」の健闘、第4戦では#13「愛知工科大学 DXL アルト1号」が記念すべきクラス初優勝を飾るなど、台数の上だけでなく、戦えるマシンとしてもその存在感を見せつけたシーズンとなった。

ちなみに#30「ガレージミウラ IDI アルト」の決勝中の最速 Lap は 1' 08.415 を記録しこれはクラス最速だった。これまで速さなら旧規格、新規格はピット作戦を含めたインサイドワークで勝負という認識を改めるには十分な事実だ。

さあ、来シーズンはどんな戦いが待ち受けているのかいまから楽しみである。

手頃ではありながら本格的、マシン調達もしやすいというこのクラス。ますますの隆盛に期待しつつ今シーズンの幕としよう。



まだまだ続きます #74



ヴィヴィオはここ #28



15位完走 #327



ここまでが完走 #81



俺たちこそが真のポディウムだ！！（こちらが1位からです）



年間表彰